

## 中酪情報 No.606

2023年7月31日発行  
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議  
編集・発行人：寺田 繁  
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

### 宛先及びお問合せ先

---

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1  
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
<http://www.dairy.co.jp/>  
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

### 編集後記

---

農林水産省「作物統計」によると、令和4年産飼料作物の作付(栽培)面積は、全国で102万6,000haで、前年度に比べ2万5,000ha(2%)増加しました。うち、牧草の作付(栽培)面積は71万1,400haで同6,200ha(1%)減少し、青刈りとうもろこしの作付面積は9万6,300haで同800ha(1%)増加しました。

飼料作物の作付(栽培)面積が100万haを超えたのは2年連続で、減少傾向にある水稻の作付面積に徐々に近づいています。ちなみに、令和4年度における水稻の作付面積(子実用)は135万5,000ha(前年度比4万8,000ha減)、うち主食用は125万1,000ha(5万2,000ha減)でした。

しかし、本誌「国産飼料作物の利用に取り組む畜産経営体は半数超」でも紹介したように、国産飼料作物の利用に取り組む畜産経営体が半数を超えている一方で、その生産・利用拡大の課題は多岐にわたっています。輸入飼料の価格が高水準で推移している今日、地域特性に配慮した低コストでの飼料作物の生産がさらに増加し、国産飼料の利用が拡大することに期待が高まっています。